

圏央道の開通に伴い交通量が増加しました。

- ・圏央道の利用交通量は、平成18年度平均19,700台/日から開通後1年間平均29,900台/日に約52%増加(青梅IC～入間IC)
- ・このうち大型車は、3,600台/日から7,200台/日に倍増

新たに開通した八王子JCT～八王子西IC間は、平均で21,300台/日(うち大型車5,600台/日)が利用

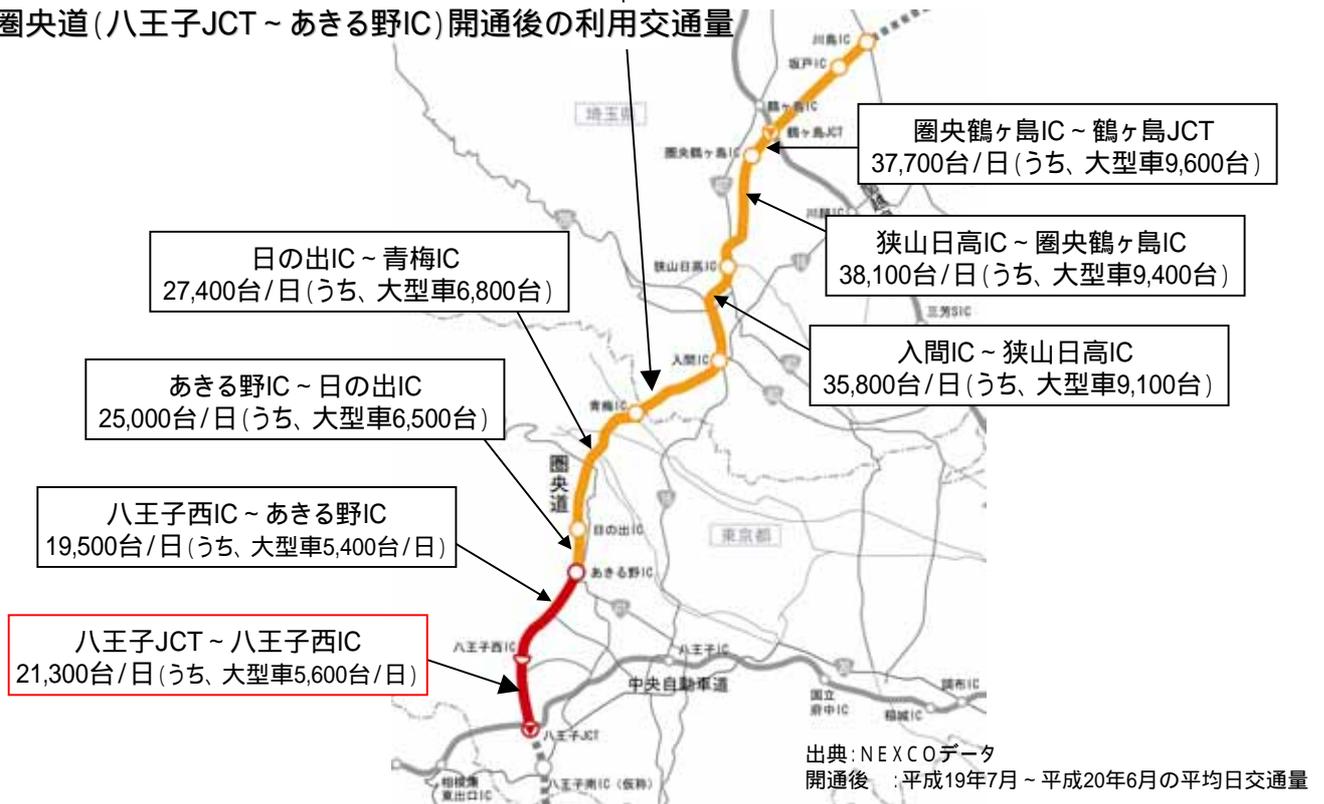
圏央道(青梅IC～入間IC)の利用交通量



平成19年6月23日圏央道(八王子JCT～あきる野IC)開通  
 平成19年8月1日料金割引社会実験開始  
 平成20年3月29日圏央道(鶴ヶ島JCT-川島IC間)開通

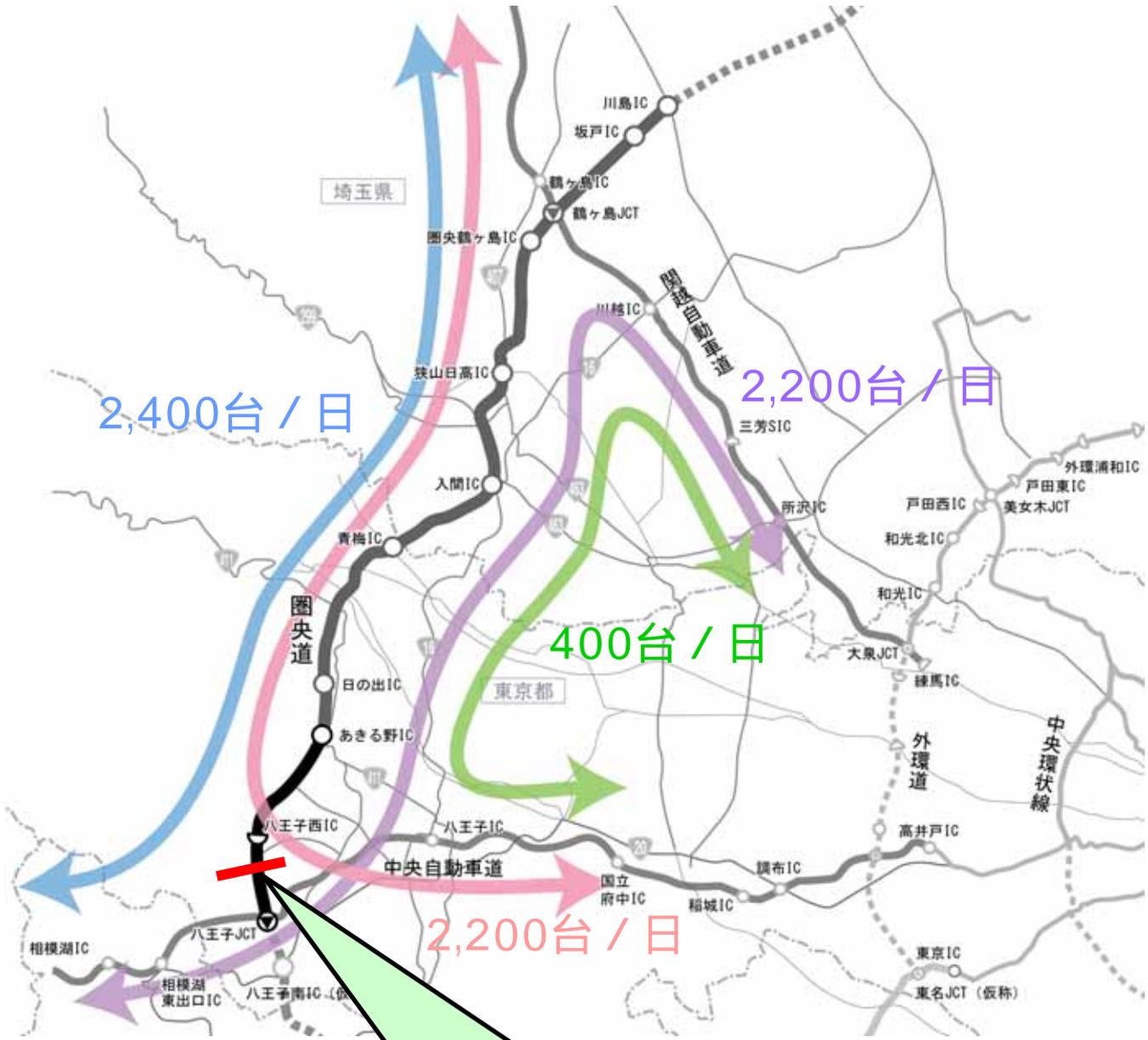
出典: NEXCOデータ  
 H8～H18: 年度平均日交通量  
 開通後: 平成19年7月～平成20年6月の平均日交通量

圏央道(八王子JCT～あきる野IC)開通後の利用交通量



圏央道(八王子JCT~八王子西IC間)の平均利用交通(19,500台/日)の約4割(7,200台/日)が中央道~関越道間を連続利用しています。(放射道路の関越道と中央道とを結ぶ環状道路としての利用)

中央道~関越道間の交通流動



出典: NEXCOデータ  
平成20年6月の平均日交通量

八王子JCT~八王子西IC間の断面平均交通量 約19,500台/日  
(うち中央道~関越道間の連続利用台数は、約7,200台/日(約4割))

・参考データ  
坂戸IC、川島ICから中央道間の連続利用台数は、約900台/日

周辺の生活道路の大型車交通量が減少しました。

- ・ 圏央道から国道16号間の小学校周辺の生活道路では、大型車の交通量が減少しています。開通前に比べ、田園通りは約25%減少、新奥多摩通りは約24%減少、国道16号は約11%減少しました。
- ・ 朝夕のピーク時では、それぞれ、田園通りで8%、33%減少し、奥多摩街道で23%、37%減少しています。
- ・ 圏央道を利用する大型車は開通前と比べ約4,600台（約211%）増加しています。（高規格幹線道路としての機能分担）

### 生活道路等の大型車交通量



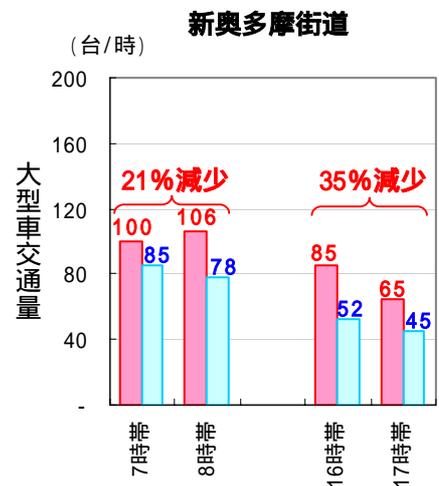
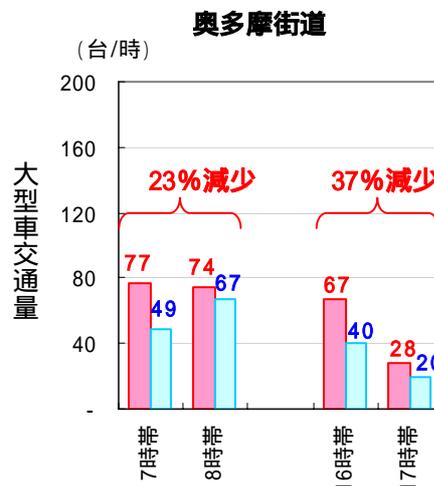
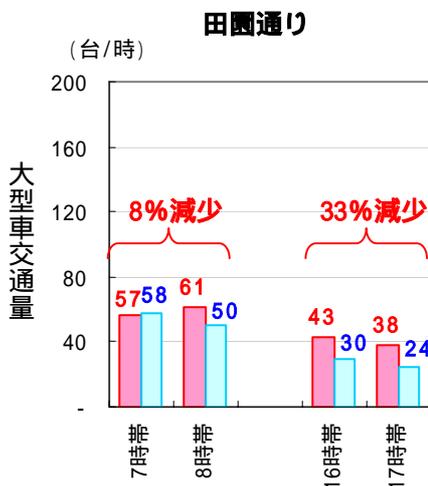
出典: 国土交通省データ NEXCOデータ

開通前: 平成19年6月12～15日(平日)の平均日交通量

開通1年後: 平成20年6月24～27日(平日)の平均日交通量



### 朝夕ピーク時の大型車交通量



出典: 国土交通省データ

開通前: 平成19年6月12～15日(平日)

開通1年後: 平成20年6月24～27日(平日)

圏央道に並行する国道16号と国道411号の大型車が減少し、渋滞緩和の効果が現れています。

- ・大型車の交通量が、国道16号の昭島市小荷田交差点<sup>こにた</sup>では、圏央道の開通前に比べ約2,500台（約14%）減少、国道411号の八王子市丹木町三丁目交差点<sup>たんぎまち</sup>では、約1,000台（約22%）減少しています。
- ・また、各交差点の渋滞長は、圏央道の開通前に比べ小荷田交差点<sup>こにた</sup>では、1,430mから870m（約39%）に減少し、丹木町三丁目交差点<sup>たんぎまち</sup>では、190mから70m（約63%）に減少しました。

## 並行する国道の交通量の変化

昭島市小荷田交差点の状況



(H19.6.13 8時頃撮影)



(H20.6.24 8時頃撮影)

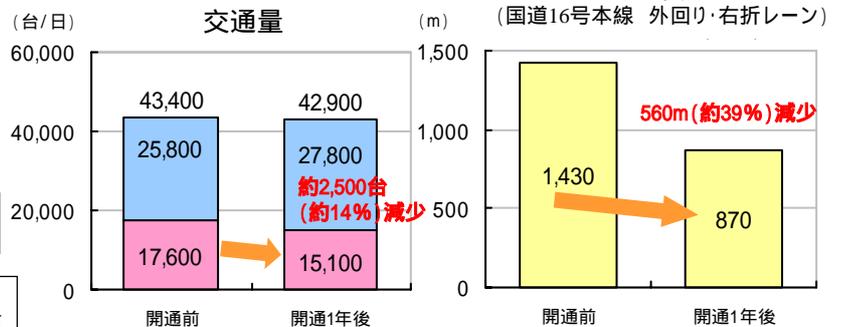


出典：国土交通省データ

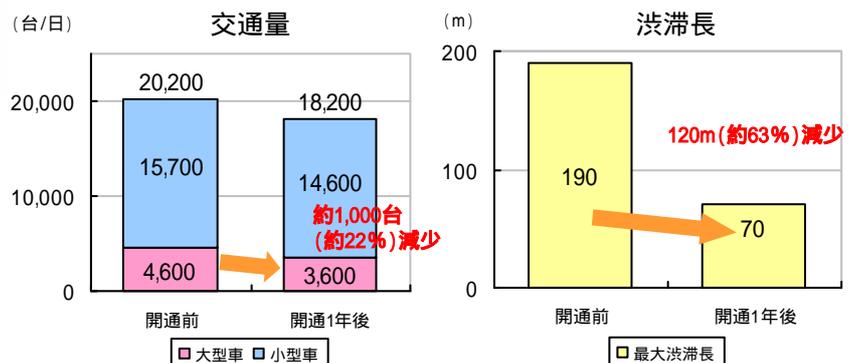
開通前：平成19年6月13日

開通1年後：平成20年6月24日

・国道16号 小荷田交差点<sup>こにた</sup>

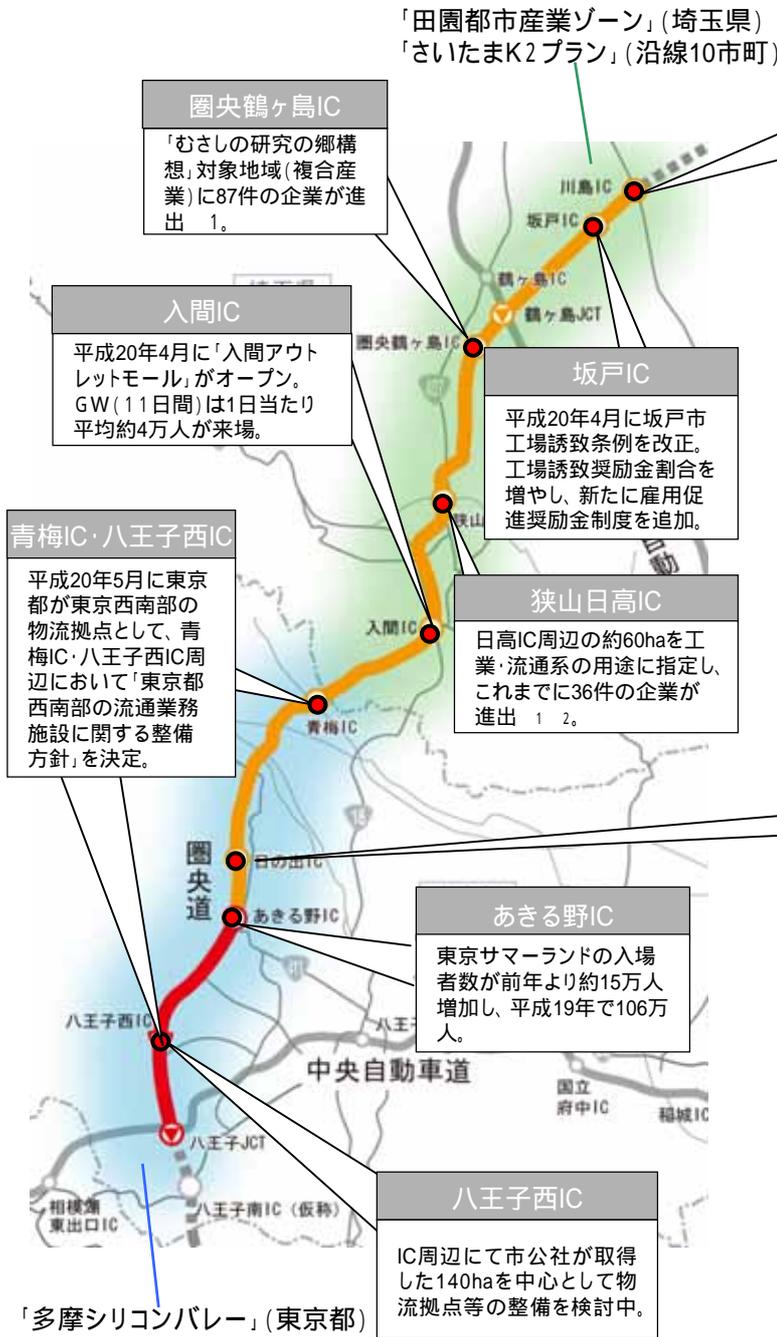


・国道411号 丹木町三丁目交差点<sup>たんぎまち</sup>



地域の産業の活性化や雇用の創出に貢献しています。

- ・圏央道沿線では、自治体による企業誘致・雇用促進に向けた取り組みやIC周辺における物流拠点の整備が行われています。
- ・圏央道の整備が大型店舗の出店の契機になり、圏央道の開通により多くの方が来訪しています。
- ・圏央道沿線地域への企業の立地や大型店舗の出店により地域の雇用が創出され、周辺市町村の活性化に貢献しています。



1 平成20年7月1日時点  
2 日高市・狭山市のみ

**日の出IC**

**圏央道整備(IC設置)が出店の契機**

- ・商圏は30分圏が目安
- ・現在、広域からの集客もにらみ、開業案内を高速道路IC周辺やSA・PAで展開

**地域雇用の創出に大きく貢献**

- ・2,300人の雇用を創出
- ・日の出町のみならず、周辺市町村の雇用

**創出にも貢献(隣接地域へ効果が波及)**

雇用総数の70%が隣接地域

地域	雇用数	割合
隣接地域	1,640人	70%
日の出町	282人	12%
その他	428人	18%
<b>雇用総数</b>	<b>2,300人</b>	<b>70%</b>

**地域の活性化に寄与**

- ・開業以降、1日約2~3万人が来場
- 来客者の約8割は自動車による来場

出典:イオンモール日の出ヒアリング結果

**圏央道・物流拠点の整備に対する地元の声**

- ・圏央道が“見える状態”でつながり、発展性・可能性が具体化し、実施の準備段階に移行
- ・八王子の物流計画は、首都圏の物流拠点の位置づけで考えている
- ・物流拠点計画が事業化すれば、地域にも大きなビジネスチャンスが発生

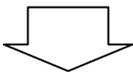
出典:八王子商工会議所ヒアリング結果

東京都は、製造業や研究・開発機能、物流機能の集積を目指し、圏央道沿線で支援プランを策定しています。(取り組み紹介)

多摩シリコンバレー(東京都)

【基本方針】

東京都は、平成18年12月に「10年後の東京」を策定。多摩地域が都域を越えた首都圏の中核拠点として発展するために、交流機能の強化を図るとともに、地域特性を踏まえた企業集積の促進を目指す。



多摩シリコンバレーの形成

【取り組み】

「10年後の東京」への実行プログラム2008

企業立地を促進する新たな融資制度等の設立

- ・区市町村の企業誘致の取り組みを支援(3年後に創造的都市型企業を20社創出)
- ・工場等の新增設に対し、長期かつ低利な融資メニューを創設(3年間の融資総額は60億)

研究開発を支える多摩産業支援拠点を開設

- ・多摩地域に新たな産業支援拠点を整備(支援拠点を平成21年度に開設)

産学・産産連携を促進する交流拠点の整備

- ・都域を越えた産学・産産連携を促進する新たな産業交流拠点整備に向けた調査の実施(3年後には整備方針を決定)

針を決定)

( )内は目標値

都域を越えた連携を促進

出典:東京都

